

おわりに

印旛沼について振り返ってみると、現在の印旛沼は大きな転換期を迎えていました。印旛沼は天然の形から人工の貯水池になり、その流域は古代から続く古村の人々の管理するところに住宅団地のような新しい人びとが住むようになり、都市化の波が押し寄せています。人が印旛沼に求める事柄も時代とともに変わってきています。

人は誰でも昔の苦労を忘れ、懐かしい思い出を美化する傾向があります。そのまま飲めるほどきれいな水を湛えた印旛沼に船を浮かべて泳いだり漁をして楽しみ、静かで美しい心癒される景色を眺めるなど、昔の懐かしい思い出は次々と浮かんできます。印旛沼は、確かに思い出にあるような恵みをもたらす沼でした。しかしその陰に恐ろしい洪水被害がありました。印旛沼の水は悪水であって、隣接する水田の灌漑用水にも利用できませんでした。

貯水池となった現在の印旛沼は、洪水被害がなくなったばかりでなく、水害の原因となる悪水を水田の灌漑用水に使い、さらに、印旛沼流域や東京湾沿岸地域の水道水・工業用水に使うことに成功しました。今や印旛沼は、安全で人の生活に不可欠の水資源を生み出す沼に生まれ変わりました。その反面で水質は悪化し、昔の思い出にある親水性に富んだ数々が損なわれています。この弱点の部分こそ、現代の人々が求める最大の事柄です。印旛沼の課題は、思い出にある数々の良さを復活させ、貯水池になって新たに開発された水を量質ともに良質な状態に保つことにあります。この課題を克服してはじめて本当の恵み豊かな印旛沼になることでしょう。印旛沼流域水循環健全化会議の目指す「恵みの沼をふたたび」とは、このことを指しています。

印旛沼の水源地をみると、そのすべてが人の生活圏です。昔から住む古村の人々は、住んでいる土地から生じる食糧・資材を生活の糧にして、土地・自然と共に生きる関係を保ちながら生活してきました。結果として生活圏でありながら水量・水質ともに良好な水源地の性格を保っていました。現在は、土地・自然から離れて単に「土地」という空間だけを求めるところが増えています。このような土地は地表面が固められて、雨水が地表の土壤に吸収されて地下水となり、湧水となってゆっくりと流れ出して河川湖沼の水源になるという、従来からあった水源地にふさわしい水循環を損なう恐れがあります。その上、生物の生育生息地としての性格をも損ないかねません。人が楽しく住みながら良好な水源地の性格を保つことが求められています。

どんなに印旛沼や世の中が変わろうとも、変わらないものがあります。印旛沼は急速に老齢化する浅い湖沼です。そのために沼の水は富栄養化して植物プランクトン（アオコ）の発生しやすい状態にあり、沼の生物生態系が崩れるとアオコが異常発生して水質を汚濁する危険性があります。その流域は火山灰土壤に覆われた洪積台地であり続けます。温暖で湿潤な気候に恵まれています。

昔から住む古村の人々は、湿地の文化を身に付けて現在も健在です。そして湿地の文化は日本人の底辺を流れる日本文化と相通じるところがあります。しかも印旛沼周辺には、立派な古代の文化文明の栄えた歴史があり、干拓開田で培った強靭な干拓精神があります。

幸いにして、印旛沼の流域は、水源地に適した地形地質的特性・気候を備えています。地域の歴史・文化がそれを後押ししています。しかも水環境・水循環の健全化に取り組む

ボランティア団体が各地で活動をはじめています。千葉県では、印旛沼流域水循環健全化会議が中心となって活動しています。行政も学際的分野の方々もこれに積極的に取り組んでいます。これらの活動は、都市化の進行する人の生活圏だけを水源地として十分な水資源を確保するという世界でも稀有な社会実験でもあります。この実験の成功する鍵は、産官学民が一体となって印旛沼とその流域の個性——立地条件・人の歴史的性格を踏まえて全流域で水環境保全活動を展開し、そこに住む人々が水と生きものにやさしい生活習慣を身に付け、湿地の文化をさらに発展させた印旛沼文化ともいるべき水文化を築くことに係っています。印旛沼とその流域の水環境保全活動が実を結び、印旛沼から自前のおいしい水を褒美として頂戴する日の来る事を期待します。都市用水の確保に悩む世界の人々も、この実験の行方を注視しています。

本書で述べた事柄は、印旛沼流域の多くの方々から生の声をお聞かせいただき、印旛沼流域水循環健全化会議関係の皆様のご協力を得て、大学をはじめとする行政を含めた専門家の方々から貴重な資料と学際的な裏付けを頂戴しながら、私見を交えてまとめたものです。特に千葉県水質保全課・同河川環境課の皆様、流域市町の水関係の皆様、千葉大学・千葉工業大学・多くの大学の皆様、(財)印旛沼環境基金の皆様、印旛沼流域の各ボランティア団体の皆様から資料とご助言を頂戴しました。皆様に心から感謝申し上げるとともに、本書が印旛沼流域の方々に読まれ、自信と誇りをもって印旛沼とその流域の水環境・水循環の健全化に寄与することを願ってやみません。

なお、本書のうち第12章生物生態は中村俊彦氏の執筆によるものです。付記して御礼申し上げます。

著者の略歴

白鳥 孝治（しらとり こうじ）

昭和 3年 1月	生まれ
昭和27年 3月	旧制東北大学農学部農芸化学科卒業
昭和28年 4月	千葉県庁入庁（千葉県農業試験場）
昭和47年 1月	東北大学農学博士
昭和55年 4月	千葉県水質保全研究所長
昭和56年 6月	千葉県公害研究所長
昭和58年 4月	千葉県環境部技監
昭和59年 3月	千葉県庁退職
昭和59年11月	財団法人印旛沼環境基金 水質研究員 平成16年退職
平成元年 2月	千葉県環境影響評価委員会委員（委員長） 平成17年4月まで
平成 4年 8月	千葉県環境調整検討委員会委員長 平成14年8月まで
平成13年10月	印旛沼流域水循環健全化会議 委員 平成16年1月まで
平成16年 3月	印旛沼流域水循環健全化会議 専門家勉強会委員
8月	印旛沼流域水循環健全化会議 農地系WG座長 同会議 市街地・雨水浸透系WG委員
10月	NPO法人水環境研究所設立（理事長、平成20年より理事）
平成17年 5月	印旛沼流域水循環健全化会議 学び系WG委員

平成13年10月印旛沼流域水循環健全化会議発足当初から平成16年1月緊急行動計画策定まで委員を務め、その後も平成20年3月まで本会議委員とともに各種分科会の座長や委員を歴任

賞罰

平成13年	千葉県環境賞（千葉県知事堂本暁子）
平成20年	地域環境保全功労者（環境大臣）
平成24年	第一回印旛沼・流域再生大賞（印旛沼流域水循環健全化会議）

著書

- 「農業公害ハンドブック」（昭和49年、地人書館、共著）
- 「印旛沼・手賀沼－水環境への提言」（平成5年、古今書院、共著）
- 「湿地の文化、再生－印旛沼から」（平成12年、梨の木社）
- 「生きている印旛沼 民俗と自然」（平成18年、嵩書房）

印旛沼流域水循環健全化調査研究報告 第 2 号
Lake Inba-numa Watershed Research and Management No. 2

印旛沼物語
Story of Lake Inba-numa

発行：印旛沼流域水循環健全化会議（虫明功臣委員長）・千葉県
Published by The Committee for Lake Inba-numa Watershed Management
(The Chairman, Katumi Musiake) and
Chiba Prefectural Government

連絡先：千葉県 県土整備部 河川環境課
〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1
Office: River Environment Division, Land Development Department
CHIBA PREFECTURE 1-1 Ichiba-cho, Chuo-ku,
Chiba City, Chiba Prefecture 260-8667

発行日：2014 年 3 月 31 日
March 31st, 2014

著者：白鳥孝治
Written by Kouji Shiratori

編集協力：パシフィックコンサルタンツ株式会社
Cooperator: Pacific Consultants Co., LTD

